

園長就任のごあいさつ

足羽学園・足羽更生園
園長 嶋田 富士男



私は、昭和56年12月に美浜町にある障がい者施設(当時は無認可小規模施設)に入職して以来、福祉の現場から離れることなく約31年の月日を経て今日に至っております。長いようで短いこの年月の流れの中で、平成25年4月よりご縁をいただき、足羽学園・足羽更生園の園長に就任いたしました。

この間、社会情勢の変化には著しいものがあり、それに伴い障がい者(児)福祉分野においても「施設中心の福祉」から「地域での暮らしを支える福祉サービス」という理念の流れのもと、当事者を主体とした利用契約制度に移り変わりました。

しかしながら、当福祉会ならびに両園はこの流れに乗り遅れることなく、着実に将来を見据えながら地域にしっかりと密着した事業展開

を行っており、この大切な時期に園長を拝命したことに身が引き締まる思いです。

持論ではありますが、支援者は常に感受性を研ぎ澄まし、固定観念にとらわれることなく、あらゆる情報や手法を駆使できる能力、技能を保持することが重要であり、かつ「人間愛」を注げる心がなければ「真の支援」はできないと考えます。まだまだ道半ばではありますが、今後も皆様にご指導をいただきながら我が道を進んでまいります。

末永く、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



継続は力なり

平成25年7月5日、職員研修センターにて「足羽福祉会優秀職員表彰式」が行われました。

永年勤続表彰や特別功績表彰など、総勢54名の職員が高村理事長から表彰状や記念品を受け取りました。

そこで今回、謝辞代表を務めた愛全園の高橋課長に、今日に至る「自身の信念」について尋ねてみました。

「30年以上なんてすごい!」と言われてますが、自分には何もない...と悩んでいたところに、先輩から『体力も能力のうち』と励まされたこと、いつも『念ずれば花開く』という言葉が胸に仕事をしてきたことが、これまで勤め続けることができた力となっています。

これからもこの言葉を心にもち続け、多くの人との出会いやかかわりを大事にし、共に喜びあい成長していきたいと想っています。



愛全園 課長
高橋 美和子



各施設長と30年以上勤続被表彰者